

安心・安全なまちづくりを支える流域下水道の整備 (防災・安全) (重点計画)

計画概要

◆計画期間

平成31年度～令和5年度(5年間)

◆計画の目標

下水道施設の耐震化を行い、安心して快適に暮らせるまちづくりを実現する。

◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①:流域下水道における地震発生時の機能(揚水・沈殿・消毒)確保率を、54%から86%に増加させる。

指標②:流域下水道における温室効果ガス排出削減量を、115百t-CO₂/年から167百t-CO₂/年に増加させる。

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A (基幹事業名)	4,354百万円	水処理施設等の耐震化、改築更新を実施	47%
B 関連社会資本整備事業	0百万円		%
C 効果促進事業	0百万円		%
合 計	4,529百万円		

※事業費は実績額

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況 (別紙1)

矢作川・境川流域下水道(矢作川処理区)及び豊川流域下水道、五条川左岸流域下水道において、耐震工事等の実施により地震発生時の機能(揚水・沈殿・消毒)確保率を向上することができた。

また、矢作川・境川流域下水道(矢作川処理区及び境川処理区、衣浦西部処理区)、五条川左岸流域下水道において、水処理施設の改築工事等の実施により、温室効果ガス排出削減量を増加することができた。

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①(流域下水道における地震発生時の機能(揚水・沈殿・消毒)確保率)

最終目標値	86%	目標値と実績値に差が出た要因	非常用電源確保のために指標の対象である施設の耐震化に優先し、自家発電設備の工事を実施したため。
最終実績値	73%		

指標②(流域下水道における温室効果ガス排出削減量)

最終目標値	167百t-CO2/年	目標値と実績値に差が出た要因	—
最終実績値	167百t-CO2/年		

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)

矢作川・境川流域下水道(矢作川処理区、境川処理区)、日光川下流流域下水道において、自家発電設備工事を実施し、処理場等の耐災害性を高めることができた。

◆今後の方針

地震発生時の機能(揚水・沈殿・消毒)確保率をより向上させるために、処理場の機能確保に必要な設備の地震対策を引き続き実施する。

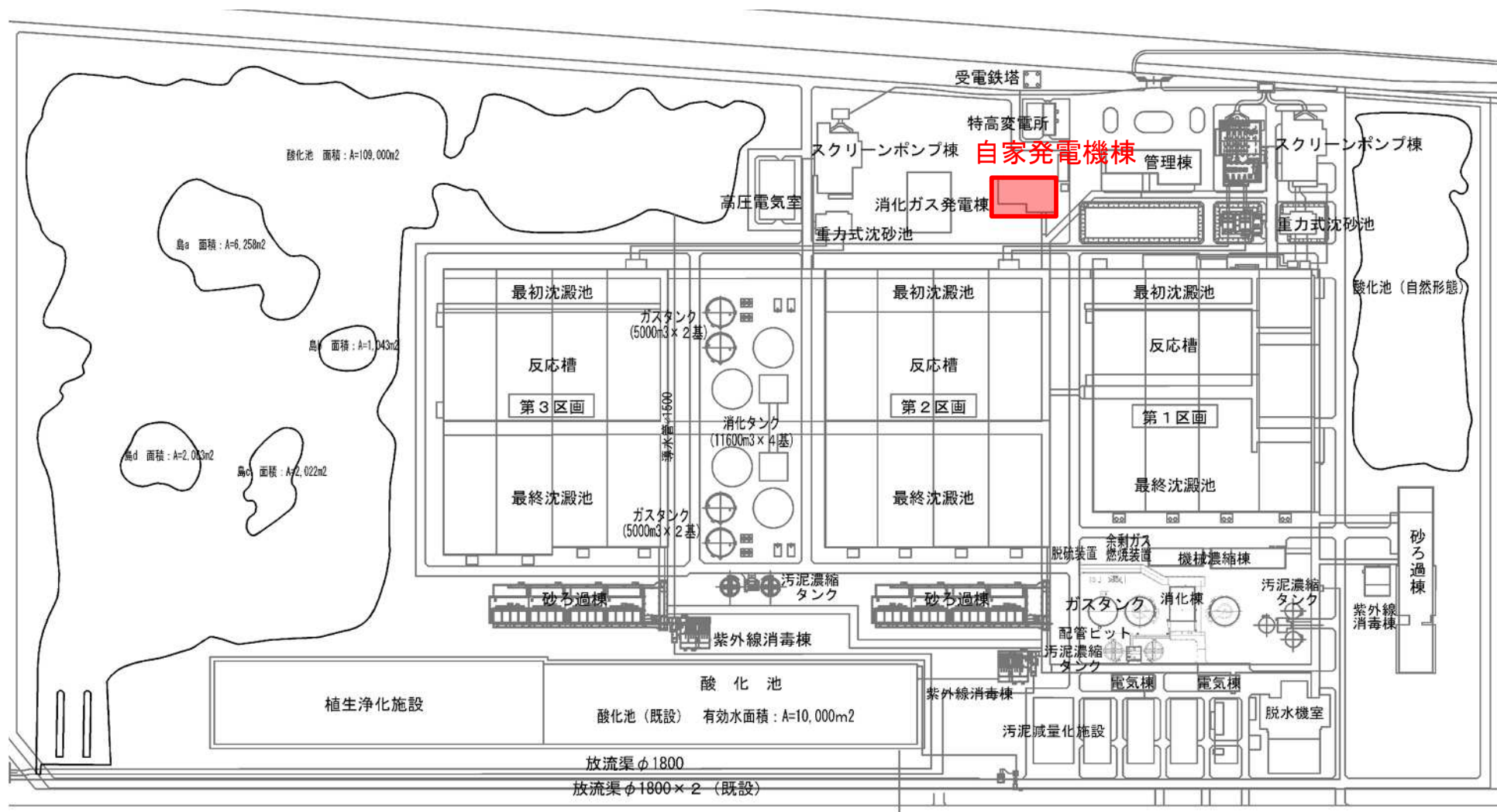
また、温室効果ガス排出削減量を増加させるため、電力や燃料の削減を図る事業を引き続き実施していく。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	策定主体である愛知県にて評価を実施。なお、計画の各要素事業(基幹事業)については愛知県公共事業評価実施要領に基づき市町事業を含む各流域下水道処理区単位で評価を実施。
事後評価の実施時期	2026年3月
公表の方法	愛知県建設局上下水道課のWEBページ掲載 (https://www.pref.aichi.jp/soshiki/jogesuido/0000073566.html)

参考図面

矢作川浄化センター 一般平面図



【基幹事業】

- 事業名 矢作川浄化センター(非常用電源確保)
- 工事概要 自家発電設備工事
- 事業箇所 西尾市港町地内
- 事業主体 愛知県
- 事業効果 矢作川浄化センターに自家発電設備を増設することで、処理場の耐災害性が高めることができた。

施工前



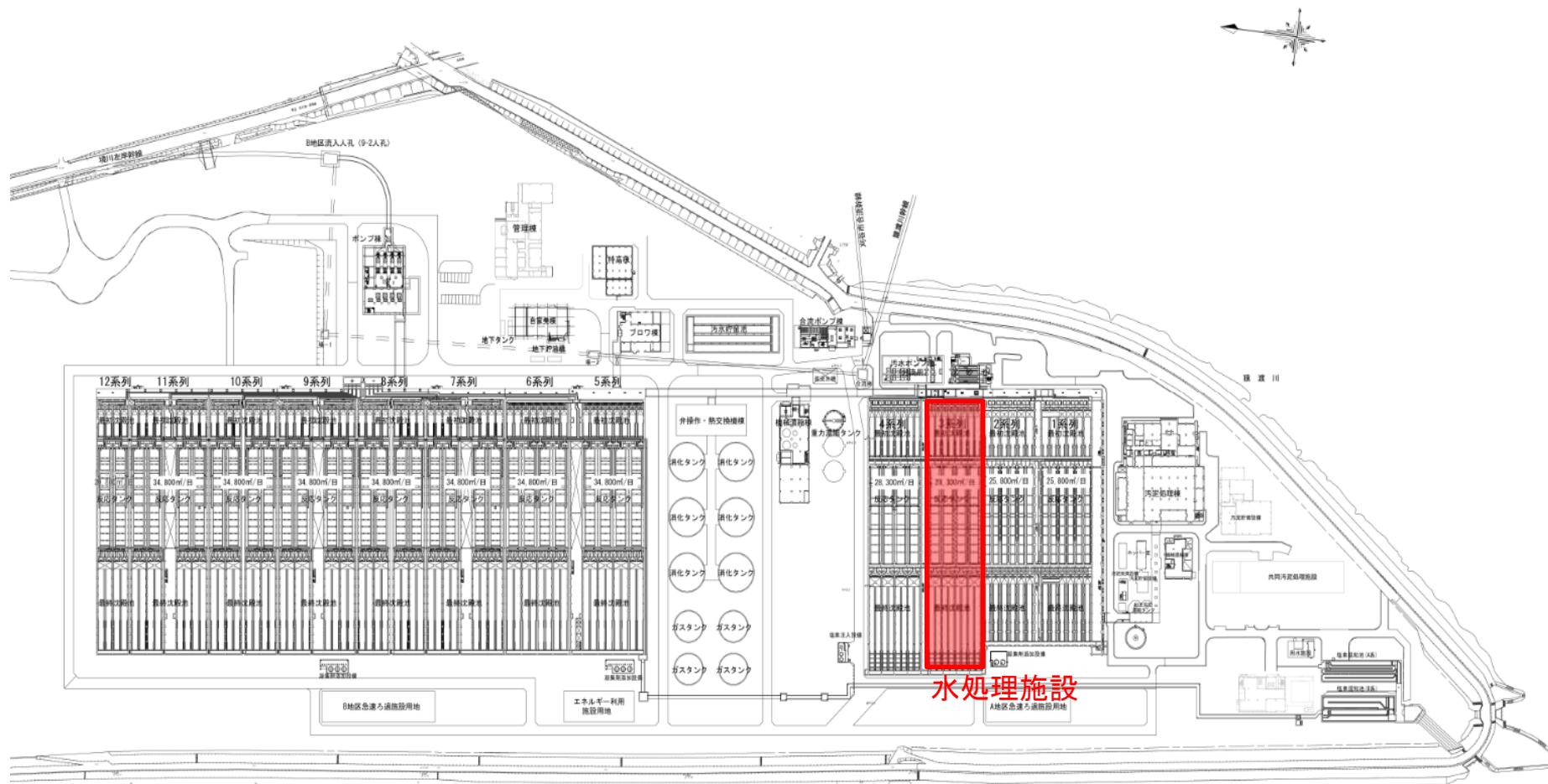
工事施工中



施工後



境川浄化センター 一般平面図



【基幹事業】

- 事業名 境川浄化センター(省エネ)
- 工事概要 水処理施設機械設備更新工事(3系散気装置)
- 事業箇所 刈谷市衣崎町地内
- 事業主体 愛知県
- 事業効果 境川浄化センターの水処理施設の散気装置を更新することで、温室効果ガス排出削減量を増加することができた。

施工前



施工後

